

大陸の広さを感じた5日間 歴史の重さ

— 青少年海外視察 —

中国
7/23 ~ 27

中華人民共和国への青少年海外視察が7月23日から27日まで行われました。上海普陀区少年宮での地元小中学生との交流、万里の長城、故宮、豫園などを見学し、貴重な体験をしてきました。

越川由美さん（篠本三区）・鈴木早苗さん（新井）・土屋真由美さん（宝米）・深田友紀さん（虫生）・岩沢裕美さん（芝崎）・向後雅秀さん（作間内）・土屋友美さん（橋場）・加瀬和昭さん（原方）・福岡里美さん（関）のみなさんが参加しました。



▲ 少年宮を視察、熱心に絵画に取り組む子供たち



▲ 万里の長城

団長 向後雅秀

町青少年海外視察研修旅行に応募した理由は、今まで東京の企業で穀物関係の仕事をしていて、中国の農作物

にはとても興味がありとてもよい勉強になるのではないかと思ひ応募しました。

今回の研修旅行の日程は、上海2泊、北京2泊という4泊5日のスケジュールでしたが、一番に考えさせられたことはとにかくスケールの大きいすごい国だということ。治安は悪くないと思いますが、人々の生活水準の貧富差、これは町並みを見るだけで肌で感じられるほどでした。至る所で民主主義と社会主義との違いを感じ驚きました。これは北京市内なのですが、東京でいう一流マンションといった感じの建物ですが、何と月々の水道光熱費が千円これも社会主義国ならではの、

市内の人々の貧富さ、これもかなりインパクトの強いものでした。

今日、日本の人口が1億2千万人に対し、何と中国

スケールの大きな すごい国



お寺も観光しましたが、仏像の顔はどれもリアルというか、中国人顔しているというか日本の仏像の顔と少し違ってました。

は10億人で8〜9倍近く、面積も日本38万km²に対し中国は96万km²で25倍これだけのスケールの大きな国です。これだけの国の人々が一人ひとり欲を持ち国の援助な

く民主的な生活を始めたと思ったらと思うと少しばかり恐怖感を感じました。

色々と観光・交流をしてきて、『少年宮』『万里の長城』『天安門』と『天安門広場』はインパクトが強く、「あー、中国にきているんだな中国に来てよかったな」と思いました。

『少年宮』では小・中学生が「ピワ」「バイオリン」中国の人民楽器の演奏・合唱などの歌唱力、踊りなどはもうプロ並みに手の指先から足の指先まできちんと指導が行きとどいているようでした。

た。このような英才教育というものをつくづく考えさせられました。

『万里の長城』は、中国絵画のようにガスがかかっていて寂しい感じでした。

『天安門』と『平安門広場』ここはみんな知っているとおり、天安門事件あの現場です。一夜にしてあの大クーデター、今になっては人民のいこいの場になっているもの異国の身近な歴史というものを肌で感じとれた気がしたのは自分だけではないでしょう。出発前から不安であったトイレは、どこも思っていたほど汚れていなかったし、水もホテルの水であれば問題はなかったのですが、さすがに本場の中華料理だけは、みんなかなり口に合わなかったみたいでした。油っぽいということはある程度は予測出来ていたのですが、でも、『北京ダック』これはいけません。

研修はとてもよい体験、勉強をさせていただきました。日本に戻って来た今、これから地域団結の一貫として今回のメンバーとその周囲に色々と大きく輪を広げて行ければと考えています。